

戰没者五十回忌

平和を誓う



戰沒者五十回忌大法要

厳修され道場を清めました。

第3号

発行所
小城郡三日月町三ヶ島
妙勝寺内
TEL 0952-73-2981
FAX 0952-73-2981

発行責任者
林 孝 隆

既にご承知の様に阪神地区に大地震が起き多くの被害が発生しました。我が蓮宗に於ても住職 檎信徒の尊い生命を失い、七ヶ寺が全壊し多くの堂宇、家屋が被害を受けました。宗門ではいち早く対策本部を設置し復興・義援に当ることとなりました。私達、佐賀県檀信徒は一日も早い復興を願い協力を致したいと存じます。皆様の暖かいご支援をお願い申し上げる次第です。

義援金につきましては各菩提寺（あなたのお寺）を通じ、佐賀県宗務所内救援対策本部にご送金頂ければ幸に存じます。「皆様の心で少しでも同信の方々の復興のお手伝いを致しましょう。」

終戰五十年沖繩法要
慰靈卒塔婆募集

一部は大自然、大宇宙との関わりといわれています。

（かいつぶり）
「備えあれば憂い無し」という諺がありますが、此の度の阪神大震災では備えも余り役に立たなかつた様な気がします。大自然のエネルギーは、人間の浅はかな知恵など到底及ぶものではありません。技術の粹を尽して建てた近代的なビルがもろくも崩壊してしまいました。

澄みきつた晚秋の空がまぶしい、平成六年十一月二十七日、宗務所・護法護持会主催により武雄市文化会館に約千五百人の僧侶、檀信徒が集い、「護法大会・お題目総弘通運動佐賀県武雄大会」が開催されました。

午前十時から第一部、護法の祈りとし
て、佐賀県内の寺庭婦人会（手島多美江
会長）による法華和讃奉納に始まり、続
いて修法師による力強い御宝前修法が

午後三時、宗務所長を始め県内寺庭婦人、武雄・杵藤地区檀信徒がステージに上り、青年会行脚隊と共に会場も割れんばかりの唱題行、お題目の声が響きわたりました。

今後尚一層のお題目信仰に精進する事を誓いあう檀信徒の姿を見て、心歡喜する思いでありました。

昼食を挟んで午後一時半から第四部
清興が行われ、県内の寺庭婦人による
コーラス、舞踊、大正琴を披露しました。
寺庭婦人たちは、今大会に備え半年前より猛練習を積み重ねてきており、その成果を十分に發揮しました。

はさ
讓山師が「闇から光明へ」と題して講演があり、参加者は日蓮宗の願いである立正安國を目指さなければならぬことを確認しました。

午前十時二十分第二部、「太平洋戦死病没戦災殉難者第五十回忌法要」が、林孝隆宗務所長を大導師に、声明師会の式衆並びに青年会雅楽部出座のもと、厳粛に営まれ、つづいて午前十一時半から第三部、静岡県富士市法藏寺の平野じょううざなやみこうみょう

す。この法要に際し参加される方もされ
ない方も慰靈の気持を表わす為、既に各
寺に配布致しております慰靈の卒塔婆を
御供養頂きたく御案内申し上げます。
申込は、菩提寺へお申し込み下さい。
卒塔婆御供養料 一本千円

※法名あるいは俗名をお書き下さい。単
に御供養の場合は施主名だけでも結構で
す。

〆切 三月末日

本年四月十二日沖縄コンベンションホールに於て「終戦五十周年沖縄宗門法要」が営まれます。当県でも百五十名余りの檀信徒が参加される事になりました。沖縄では多くの軍人、民間人が亡くなり未だに発見されていない御遺骨もありま



特集

お彼岸

「悲願」という言葉がございます。これは悲壯な願い、是非とも達成しようと思つてゐる願望という意味です。従つて「彼岸」とは少し違うものですが、仏教徒である私達はこの、悲願の思いで「彼岸」(仏様の世界)へ渡れる様に努力していかねばなりません。

六種の行

「六波羅密」という仏教の言葉があります。これは「彼岸」に到達するための六種の行(おこない)のことです。すなわち、布施、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧の六種で、仏道を修行し悟りを得るためには実践すべき事として示されております。これからその六種を簡単に説明してまいります。

布施

人の為に尽くす、何かをしてあげること。

この布施で大切な事は、決して相手に見返りを求めないという事です。そうではないと不淨施といって、本来の布施ではなくなってしまいます。

先日の阪神大震災でのボランティア活動をテレビで御覧になられた方も多いと思いますが、あの姿こそが布施の淨行なのです。

持戒

私達が集団生活を営んでいく上でのルールや戒律を守ること。

精進

努力する事、励む事、努める事、持ち

佛教で説かれている有名なものには次の五つがあります。

一、不殺生戒(生き物を殺さない)

二、不偷盜戒(盗みをしない)

三、不邪淫戒(みだらな事をしない)

四、不妄語戒(嘘をつかない)

五、不飲酒戒(酒を飲まない)

これら的事は他から命令されて従うものではなく、自發的な戒として定められています。

忍辱

迫害や侮辱に対し、耐え忍ぶこと。

決して人を怒ったり、恨んだりしないで、どんなに辛い事でも我慢するのが本

当の勇気です。

「忍ぶこと、まさに橋の如くなるべし。橋は人に踏まれて人を渡せり」という言葉がござります。時として怒りは爆発させるよりもこらえた後の方がすつきりするものです。お釈迦様は決して怒らなかつたという事を学びましょう。

継続は力なり
「精出せば凍る暇無し水車」
などと、精進を勧める言葉も数多くござります。皆様がそれぞれのお仕事に励む事は勿論ですが、根本には「信仰」に努めることを覚えておいて下さい。

禅定

気持ちを落ちつかせ、何事にも心を乱されない状態の事です。

如來寿量品第十六(お自我偈)の中に「質直意柔軟」とござります。質直とは素直な心、柔軟とは柔和で従順な心の事です。この気持ちを持って日々の生活を送り、時には自分自身を反省致しましょう。

智慧

学問や知識の事だけではなく、眞実の智慧を得る事、つまり仏道に目覚める事です。

自分が仏様の世界に生かされているという事、又、自分の中の仏となる種(仮性)の存在に気付いて物事を正しく見、正しく考えられる人間になりたいものです。



創業100年

辻の堂の仏壇や

(株)本庄仏具総本店

佐賀市堀川町(辻の堂)

☎ 0952-23-2955(代)

美と健康とサービスを皆様へお届け致します。

Elegant Beauty Management
EBMスキンケアアステージオ

株式会社イービーエム

代表取締役 松島 荘子
〒810 福岡市博多区博多駅東1-12-5
TEL (092) 482-6601



「まつよまづ、仏の種も彼岸から」

「光陰矢の如し」と申しますが、本当に月日の経つのは早いもので春のお彼岸がやつて参りました。年が明け寒い寒いと申しておりましたが、梅もほころび春の日差しを受け、草木も芽を出し暖かい気候となり、私達の心までが明るくなつてくる気がします。

この様に暖かく活動しやすくなりますと色々な事が出来る様になります。私達の御先祖様は、年間を通して仏道修行の行い易い時期はいつ頃だろうかと考えられ、春と秋の時期を選択し、一週間づつ期間を設定され、この間に仏道修行に精進する事を決められました。実は、これが春・秋の彼岸の発端なのであります。そして、その彼岸は、世界中でも日本だけにしかない国民的伝統行事なのです。私達は、せっかく先祖が残してくれたこの大事なものを真摯な態度で受け止め、行動に表わして行く様努めなくてはなりません。

では、「彼岸」とはどの様な意味があるのでしょうか。彼の岸と書きますが、彼の岸とは、仏様のお悟りの世界の事で汚れのない純粹な清らかな世界を言います。これとは反対に「此岸」という言葉があり、此の岸、即ち私達の住む汚れきったとは、この汚れきっている世界から清らかで汚れのない仏様の世界へ渡ろうと努力精進する事を申す訳であります。

ところで今の世の中はどうでしょうか。人の幸せより自分の幸せを追求し、お金、名譽、地位を貰り愚かな事ばかり繰り返

しているのが現状です。自分が幸せになる為には、他人の命までも奪い、それどころかももつとひどい事には我が子の命までも奪い取つてしまつという凶悪な犯罪も起きました。これでは到底彼岸の世界には行けません。誠に悲しい世の中です。

彼岸というものは決して難しい修行をしなさいという事でなく、自分の幸せを求める事よりも、少し周囲の人達にも目を向けて、周囲の人達の幸せというものを考へ、その為に少しでも実践してみましょうという事なのです。

日蓮大聖人は「彼岸抄」の中で「それ彼岸とは春秋の時節の七日、信男信女ありて、もし彼の衆善を修して小行をつとむれば、生死の此の岸より苦海の蒼波をしのぎ菩提の彼岸に到る時節なり。ゆえにこの七日を彼岸となづく。この七日のうちに一善の小行を修せば、必ず仏果菩提を得べし。余の時節に日月をはこび功労をつくすよりは、彼岸一日の小善はよく大菩提に至るなり」と仰せになり、彼岸の間に積む功德は大変素晴らしい、又それが例え小さな善行であっても功德の大なものになるのですとお示しであります。

自分の幸せよりも他人の幸せを願い実行出来る人、この人を菩薩と申します。そして、その行いを菩薩行と申します。右の頁に説明があります様に、この彼岸の間に六つの行いをしなければなりません。六つの全部とは申しません。自分の出来る行いから始められては如何でしょうか。

三・菩薩行に励む

さっそく彼岸への第一歩を歩んで下さい。今年の一月十七日、かつてない未曾有の大惨事が兵庫県で発生しました。恐らく皆さんはテレビの報道にくぎづけだった事と思いますが、その報道の中で大変嬉しかった事は、大地震発生直後より全国各地から何万という老若男女の方々が自分の仕事を放棄し、ボランティア活動に参加され救援活動をされている事でした。まさに地獄の世界に佛の世界、彼岸の世界がある。これだと感銘しました。人間本来、仏になる種を持っていてます。種は持ちながらなかなか芽を出しません、しかしながら芽を出させようと真剣に志を持った時に人間は仏になれるのです。不自惜身命」即ち「一心に仏を見たまつらんと欲して、自らの身命を惜しまず」という教えであります。これは、本当に彼岸に行きたいと思うならば、自分の命さえも惜しまないと、この程の真剣さが必要であるという事を私達にお示しの言葉であります。

日蓮大聖人のお言葉に「藏の財よりも身の財すぐれたり。身の財より心の財第一なり。」とあります様に、彼岸にあたり心の財を大切にして参りたいものです。



日蓮宗新聞購読のお願い!!

・分かりやすい日蓮聖人のお手紙や、お經の解説
・全国の日蓮宗の動きが分かる

お申し込みは各菩提寺へお願いします。

一年間、三千六百円・月三回直接郵便にて
各家庭にお届けします。

手を合わせるこころを大切に・・・

山木化具

佐賀市吳服元町10-12 23-4308

〒840 (0952)

創業明治22年

旅館
あけぼの

佐賀市中ノ小路3-10 (0952) 24-8181

寺院紹介(三)

高城山法蓮寺

法蓮寺は唐津市街地に位置し、鍋かむり日親上人の木像が安置されている事で有名なお寺です。

歴史

日親上人が九州の総導師職として松尾山光勝寺に住職されていた時、松浦郡石志村（現、唐津市山本）に住した真言の修験僧八幡坊法印を訪ね、法論を戦わせた結果、八幡坊は屈して弟子となり名を善林院日悟と改め、寺名を法蓮寺と名付けられました。



大正十五年七月
子爵小笠原長生

【本堂と山額】

現在の本堂は昭和六年に二十四世日解上人の時建立された間口九間奥行十間の



日親上人木像

【日親上人像】

日親上人が七十八才の時作られた像で、弟子の博多法性寺初祖日祇上人に命じて作されました。御像胎内には、

「文明十六甲辰年、應嚴命奉作、御尊像、日祇」

と日親上人自らの命により作られた事が記されてあります。

長生の懇請に依り東郷元師の特に揮毫せられたる高城山山額を今般當山に奉納致す也

八幡坊は肥前波多家六代目鬼子岳城主波多下野守積世の子で、真言の修験僧として有名な方でした。日悟上人には法弟子が無く百數十年間の記録は不明である。二世教行院日義上人の時大檀那波多家十四代三河守親は豊臣秀吉の憤りにふれ、家は断絶され同時に寺も没収されました。以後、五世了法院日正上人まで現在地近くに茅庵を結び細々と存続しておりました第三代唐津城主松平和泉守・北堂婦人が日正上人に帰依され現在の土地と諸堂を寄進されました。本堂内陣の宝塔二仏菩薩像はその当時の像です。

大きなお堂で、正面には東郷平八郎元師の筆による「高城山」の山額が掲げられています。また仏舎利殿、位牌堂等の諸堂が整備されています。

【清正公像】

日蓮宗の大信者として知られた加藤清正公の像で、清正公熊本城主の時、慶長七年六月一日、四十二才の厄晴を迎えるにあたり自像三体を作り、自ら点眼して南関の城代加藤清兵衛正俊に与えた像で明治十五年より除厄清正公として当山に安置されています。



法蓮寺全景

藤山英周住職

拝む心で尊い品を ◆お仏壇、お仏具のご用命は

梅谷佛具店

仙壇・仏具・寺院用品・寺院納骨堂設計施工
〒812 福岡市博多区奈良屋町3-21 TEL092-271-0456 (代表)

創業明治10年



仏壇・仏具
製造販売

(株)村山佛光堂

本店/佐賀市水ヶ江2-7-39
展示場/本店ヨリ北へ2軒
工場・倉庫/佐賀市水ヶ江1-4-23

☎ 0952-23-7595